

人を対象とする医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学では、本学倫理委員会の承認を得て、マウントサイナイ医科大学との国際交流協定に基づき企画された、下記の疫学研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2017年6月 福島県立医科大学医学部免疫学講座 講座主任 関根 英治

【研究課題名】東日本大震災とそれに引き続く一連の原子力災害を被災した年齢が、医師への志望動機、レジリエンス10要素に繋がる行動、日本語版外傷後成長尺度 (PTGI-J) およびコナー・デビッドソン回復力尺度にどのような影響を与えたかの福島県立医科大学医学部生を対象とした調査

【研究期間】 2017年6月(倫理委員会承認後)～2019年7月

【研究の意義・目的】福島県立医科大学医学部生(以下、本学医学部生)は2011年3月1日に発生した東日本大震災やそれに引き続く福島第一原子力発電所事故(以下3.11)で被災した人々に一番近い医学部生として様々な形でサポートしてきましたが、自身もまた被災者でした。ニューヨーク市のマウントサイナイ医科大学医学生もまた同様に、自身も被災者でありながらも、ハリケーン サンディや2001年9月11日に発生したアメリカ同時多発テロ事件(以下9.11)で被災した人々をサポートしてきたという点で多くの類似点を見出すことができます。

災害におけるPTSDの近年の研究では、被災者が困難な状況のなかにおいてもポジティブな意味や有益性を見出す「有益性発見」をすることが、被災体験に対するネガティブな心象を縮小または緩和させると指摘されるようになってきています。実際に、マウントサイナイ医科大学医学生を対象とした調査では、医学生の性別や立場などの違いにより、異なる情動反応を示すことがわかりました。この結果は新たな災害が発生したときの精神的援助方法を改善するだけでなく、現在PTSDを負っている被災者をサポートすることにも直接活かすことができることを示唆しています。

同様の方法を本学医学部生に応用することで、異なる年齢における被災経験とボランティア活動がPTSDや医師のモチベーションにどう影響しているのかを、先天的な性格やどのような対処的行動をとったのかを絡めて調査します。

本研究申請に先行して2014年に福島県立医科大学の医学部生を対象に行われた、PTSDと日本語版外傷体験後成長尺度(Post-Traumatic Growth Inventory-Japanese version (PTGI-J))調査の結果では、3.11後にボランティアに参加した医学生は、人命救助に対する積極的な意識の高まりを感じ、より強く医者になりたいという願望が増加した傾向がみられました。また、参加しなかった医学生と比較し、ボランティアに参加した医学生には、有意に高い外傷体験後成長尺度(PTGI)の変化が認められました。しかしボランティアに参加した医学生はより高年齢、すなわち専門職に近かったという偏りが生じていました。

以上の研究成果を背景に、本研究では福島県立医科大学の医学部生を対象に、レジリエンス10要素に繋がる行動とコナー・デビッドソン回復力尺度による学生の性格や素質を年齢および入学学年ごとに調査するほか、2014年度の研究で対象となった学年を再度

対象とし先行研究と比較対比することで、年齢と学年（医師への近さ）がどのように影響を及ぼしているのかを解析することを目的とします。また日米の文化的差異によって調査票の解釈が一方向的にならないように、調査表にマウントサイナイ医科大学の連絡先を記載し交流希望者を募ります。交流のなかで日米学生の相互理解を災害にとどまらず深め、そのなかから得られた経験を調査票の解釈に対して記述的に反映します。

【研究の方法】

1. 福島県立医科大学医学部生へ以下の3つの自己記入式アンケート調査と一つの交流取材を行います。

調査A：3.11東日本大震災の経験とそれに対する反応調査

調査B：日本語版外傷後成長尺度（PTGI-J）調査

調査C：日本語版コナー・デビッドソン回復力尺度調査

調査D：本学医学部生とマウントサイナイ医科大学の交流を通じた取材

2. アンケート結果を連結不可能匿名化データとしてコンピュータに入力し、以下の方法で評価します。

調査A：個々の医学部生の被災状況や災害に関するボランティア活動状況、ストレス対処行動の実施状況、災害への情動反応との相互関係を、相関・回帰分析を行って評価します。

調査B：統計学的手法を用いた4段階の評価法で評価します。

調査C：調査Aの個々の医学部生の被災状況や災害に関するボランティア活動状況と、災害への情動反応との相互関係を相関・回帰分析を行って評価します。

調査Dの交流を通じた取材では、交流後匿名でメモをコンピュータもしくは文書で作成し、上記アンケート調査の解釈に記述的に反映します。

3. 調査結果を、研究対象である福島県立医科大学医学部生へ、FMU国際交流事業のホームページ<http://www.fmu.ac.jp/univ/daigaku/kouryu/index.html#report>を通じて開示します。また、福島県立医科大学やマウントサイナイ医科大学における研究報告会での口演またはポスター発表や、学術誌への論文投稿を行います。

【研究組織、研究機関名】

研究責任者（所属）		（職）	（氏名）
福島県立医科大学	免疫学講座	教授	関根 英治
主任研究者（所属）		（職）	（氏名）
福島県立医科大学	免疫学講座	教授	関根 英治
マウントサイナイ医科大学	内分泌科プログラム	教授	柳澤ロバート
マウントサイナイ医科大学	国際精神科	教授	Craig Katz
研究分担者（所属）		（職）	（氏名）
福島県立医科大学	災害こころの医学講座	教授	前田 正治
福島県立医科大学	神経精神医学講座	教授	矢部 博興
福島県立医科大学	医療人育成・支援センター 臨床教育研修部門	教授	大谷 晃司
福島県立医科大学	公衆衛生学講座	MD-PhDコース学生	町田 萌子
福島県立医科大学	細胞統合生理学講座	MD-PhDコース学生	竹口 優三
マウントサイナイ医科大学	医学部	学生	Halley Kaye-Kauderer
マウントサイナイ医科大学	医学部	学生	Jacob Levine

【人体から採取された試料等の利用について】 該当しません。

【他の機関等への試料等の提供について】

本研究は、福島県立医科大学およびマウントサイナイ医科大学内のみで行なう研究とし、他の機関への試料等(データ)の提供は行ないません。なお、データは匿名化されており、個人が特定されるような情報は含みません。

【研究者が保有する個人情報について】

本研究のために使用する試料等は、連結不可能匿名化とします。具体的には、学年別の番号があらかじめ付された無記名の自己記入式アンケート調査用紙を研究対象者に配布し、回収後にランダムに個別番号を付して得られたデータを外部記憶媒体に記録します。匿名化されたデータは研究者が保管しますが、個人が特定される対応表は作成されません。

記入後のアンケート用紙は、研究責任者(関根英治)の管理責任の下、福島県立医科大学免疫学講座教授室の施錠可能なキャビネットに研究期間終了時(2019年7月)まで保存されます。研究期間終了後、アンケート用紙は直ちに第三者が閲覧できないように梱包され、機密文書として焼却処分されます。交流を通じた取材時に作成されたメモは主任研究者(柳澤ロバート)の管理責任の下、マウントサイナイ医科大学内内分泌科准教授室の施錠可能なキャビネットに研究期間終了時(2019年7月)まで保存されます。その複製は研究責任者(関根英治)の管理責任の下、福島県立医科大学免疫学講座教授室の施錠可能なキャビネットに研究期間終了時(2019年7月)まで保存されます。研究機関終了後、復元不能な状態で電子的に消去もしくは物理的に裁断されます。なお、研究者が保有する個人情報に関し、被験者ご本人又は代理人の方が開示、訂正、利用停止及び第三者への提供の停止等の請求を行う場合、「福島県個人情報保護条例」に基づく手続きが必要となります。なお、開示等を行う場合、請求者には文書等の交付に係る費用(コピー代等)をご負担いただきます。

【本研究に関する問合せ先】

○研究内容に関する問合せの窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学医学部免疫学講座 担当 関根英治

電話:024-547-1146 FAX:024-548-6760

E-mail:sekine@fmu.ac.jp

○個人情報に関する窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学 総務課 大学管理係

電話:024-547-1007 FAX:024-547-1995

○その他ご意見の窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学 医療研究推進課 研究推進係

電話:024-547-1825 FAX:024-581-5163

E-mail:rs@fmu.ac.jp